

異業種から参入



脱・下請けへ中小企業4社で開発「電子プロシエクト」の「まわる電子基板」

異業種からも相次いで新規参入が続く。精密板金加工を手がけるスガマ(東京都板橋区)は、昨年1月、初の自社製品となるデジタルサイネージを製作した。私鉄の車内で電子看板を手がける彩ネットアド(埼玉県川口市)などと連携。自社で加工した筐体に液晶パネルを組み込んだ。やはりコンテンツの内容

大型や回転式など、脱・下請け、狙う

など「運用までできる」(古木社長)のを強みに、同社ではそれまでも電子基板の金属製外枠を手がけていた。大手電機メ

これまでに公共施設などに約20台を納入。自社で加工するため、決まった製品をつくるというよりは、ユーザーの使用場所にあったデザインやサイズを提案する(同)。沖繩の交通機関などから大型受注も入るなど、今後出荷数は伸びそうだ。

また、東海技研工業(岐阜県中津川市)は、主にモニターサイズが32型以上の大型電子基板を製造。主力の配電盤部品の板金加工技術を生かして、低コスト、短納期で特注品に対応する。通信システムやコンテンツの企画構築まで一括して受注し、3年後に売上高3億円を目指す。

「脱・下請け」を目的に中小企業の異業種交流会を母体として発足。高い成長が見込める電子基板を軌道に乗せ、下請けからの脱却という大願成就を果たす構えだ。

「まわる電子基板」を

深層断面